

I 神の安息、救いに入る為の約束がまだ残っている

1. 「私たちは恐れる心（恐怖心ではなく神を恐れ敬う心）を持つてはありませんか。神の安息に入るための約束がまだ残っている」：1。

神の安息とは、神の救いの恵み。この手紙の受取人のクリスチャン達は、信仰の脱落と後退の危機にあり、ちょうど、荒野をさ迷うイスラエル人の様な状態だった。そういう人々に、神に立ち返るなら、安息、救いを与えるという神の約束は、今も残っていると励ます。

2. 「信じた私たちは安息に入りますが、…その安息に入る人々がまだ残っていて、また、以前に良い知らせを聞いた人々が不従順のゆえに入れなかった（ヨシュアとカレブ以外の民）ので、神は再び、ある日を「今日」と定め、長い年月の後、前に言われたのと同じように、ダビデを通して、『今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない』と語られたのです。もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであれば、神はその後に別の日のことを話されることはなかったでしょう。したがって、安息日の休み（救い）は、神の民のためにまだ残されています。神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです（自分の力、自分の不完全な行いで救われようとせず、主を信じる信仰により、主の十字架の救いに憩う）。ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、この安息（救い）に入るように努めようではありませんか」：3－11。
3. 以上の事から、約束の地カナンは、神の永遠の安息、天国のひな形と分かる。神の約束の救いは、今も、有効なのだから。

II 私達の警告と救いを与える神の御言葉の力とご性質：12

1. 12節の「神のことば」とは、聖書のこと。

聖書の究極的な著者は、聖霊なる神。それ故に、聖書は、信頼出来る神のみことば。御聖霊は、御言葉と共に働かれる。

「聖書はすべて神の靈感（原語：神の息吹、御聖霊）によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です」（Ⅱテモテ3：16）。

2. 神のことば。

- ①「神のことばは生きていて」：12。

聖書の御言葉には、神の命の息が吹き込まれている。そして、今も、その著者の神、御聖霊も生きて働かされている。特に、私達が、祈りつつ御言葉を味わう時、御言葉は生きていて、私達にいのちの息を吹きかけ、働きかけられる！

- ②「力があり」：12。

「みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます」（ヤコブ1：21）。

みことばは、私達に、私達の魂を救う力、罪を示す力、悔い改める力、人を愛し赦す力、試練の中で忍耐する力（思い通りにならなくても、主を見上げ、希望を持って前向きに生きる力）を与える。

それ故に、神の御言葉を、いつも読み、味わい、見つめ、反芻しよう！

みことばは、ただものではない。すごい力がある。

- ③「両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髓を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます」：12。

みことばは、私達の隠している心の罪を刺し貫き、心の思いやはかりごとの本当の動機を見分けさせる。私達の心を裸にして下さり、罪を認めさせ、真の悔い改めへ導き、神に立ち返らせ、神ご自身を喜び、神との交わりを最高の幸せと自覚させられる！そして、私達の品性を主の姿、ご性質に変え続けて下さる。

Ⅲ 神の御言葉への応答

1. 良くない応答＝神に逆らい続ける。神の御声に従わない。神から離れる。

2. 良い応答＝

①「恐れる心を持つ」：1。

この恐れは、神への恐怖心ではなく、神を畏れ敬う心。従う者への神の祝福と背き続ける者への神の正しいさばきを理解する心。

②「みことばが、聞いた人たちに信仰によって結びつけられなかったからです」：2。

こうならないように気を付ける。

このみことばは、重要な事を教えている。

みことばの聞き方には、2種類あり、

i みことばを聞いても、自分への御言葉として聞かず、みことばが自分の心、生活に結びつかない、影響を与えない。

ii みことばを聞いて、神から自分への御声と聞いて受け取り、自分の心、自分の生活の状況に結び付け、当てはめ、示される罪を悔い改め、神に立ち返る応答、聞き方は幸いである。

神とみことばの近くを歩む事は幸い、最高の祝福！

謙遜で聞く耳のある心で聖書を読むと心に御言葉が響く。

③1節で「私たちは」と言われている。個人的ではなく「私たちは」。

つまり、個人的に信仰の落伍をしないように努めるだけではなく、教会として、互いに祈り合い、戒め合い、励まし合って、天国、神の安息まで、共同体、教会として進む。この地上では試練が皆ある。

④「だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように」：11。

つまり、神の目に「一人くらい」という目はない。

「神の目に、一人一人が、高価で尊い。一人一人、大切に愛されている」。と同時に、一人一人の集まりである教会が、主の花嫁として愛されている。この恵みを深く自覚して歩みたい。

⑤「神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。

この神に対して、私たちは申し開きをするのです（主の再臨の時）」：13。

この厳粛な御言葉を本気で受け止める。

自分への御言葉として自分に結びつける。

このみことばを本気で受け止め、最後の審判の時、自分の心と罪の行いのすべてが裸にされ、さらけ出される事実を思う時、私達のすべての罪を償われた主の十字架の恵みにすがると分かります！

主の十字架の恵みはありがたい！

「私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません」
ガラテヤ6：14。

また、主の再臨、自分の死、最後の審判が来る前に、自分の罪を隠さず、すべてをご存知の神に告白し完全な赦しときよめを日々いただきたい！

「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」Iヨハネ1：9。

「御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます」1：7。

祈り：主の十字架の恵みを心から感謝します。

日々自分の罪を告白し、完全な赦しを受け、御聖霊の力で罪から離れる者に変え続けて下さい！